

### 3 平成 27 年度 学校評価

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1 子どもが主体的意欲的になる授業を実践します。	①キャリア教育の視点を持ち、子どもにとって分かりやすく、実際の日常生活に役立つ授業実践を行います。	①キャリア教育の視点を持ち、子どもにとって分かりやすく、実際の日常生活に役立つ授業実践を行うことができたか。	評価：A	・個別教育計画やその評価を読み合う場を設定し子どもについて授業について学部全体で考える環境を整えていく	●「楽しく学校へ通っていますか」 B以上評価 保護者 96% 教員 99%	◎各学部、部門ごと、子どもたちにとって分かりやすく、実際の日常生活に役立つ授業実践ができています。子どもたちが楽しく学校へ通うというアンケート結果も保護者・教員ともに95%を越えている。
	②タブレット型端末や身体の微細な動きを感知するスイッチ等の先端技術を活用した授業実践に向けて「ICT推進プロジェクト」に取組みます。	②タブレット型端末や身体の微細な動きを感知するスイッチ等の先端技術を活用した授業実践に向けて「ICT推進プロジェクト」に取組むことができたか。	評価：A	・指導方法の蓄積は継続し、さらに授業での活用の成果について整理していく。	●「タブレット型端末等、ICT機器を取り入れた授業実践をしていますか」 B以上評価 保護者 81% 教員 72%	◎今年度から ICT 推進プロジェクトを立ち上げ、iPad 勉強会も年間 20 回実施するなど、教員はもとより保護者や地域の教員まで巻き込んだ取組みができています。研修を積み重ね、日常的に iPad 等の ICT 機器を取り入れた教材工夫をした授業実践に努める。
	③授業のみならず、子どもの生活全体をチーム支援するために、校内支援体制（ケース会議等）を確立します。	③授業のみならず、子どもの生活全体をチーム支援するために、校内支援体制（ケース会議等）を確立することができたか。	評価：A	・ケース会議の目的、参加者等を整理して開催する。 ・水曜日課を活用し、ケース会議を継続、充実させていく。	●「子どもの生活全体をチーム支援するためにケース会議を行っていますか」 B以上評価 保護者 89% 教員 73%	◎学部と関係部署とが連携を図り、目的や参加者を整理した上で、問題が起こる前に行う未然防止的なケース会議等の取組みをすすめていく。
2 教職員の専門性を高めるため授業改善に全職員で取組みます。	①「授業改善プロジェクト」により、全職員が授業研究を主体的・意欲的に取組めるシステムを構築するとともに、教職員のキャリアアップを図ります。	①「授業改善プロジェクト」により、全職員が授業研究を主体的・意欲的に取組めるシステムを構築するとともに、教職員のキャリアアップを図ることができたか。	評価：A	・経験者研究授業及び授業検討会は継続して実施していく。研究授業対象以外の教員も一人1回は授業改善アドバイスシステムを活用する体制を整備する。	●「授業改善に取組んでいますか」 B以上評価 保護者 92% 教員 86%	◎授業改善に係るアンケート結果は、B以上の肯定的な評価が保護者教員とも85%以上を越えている。 教員も授業改善に取り組んだ成果を感じ、保護者にも見える形で伝わったということが評価できる
	②個別教育計画が授業と連動するように見直します。	②個別教育計画が授業と連動するように見直すことができたか。	評価：B	・校内アセスメントでのアドバイスも含め、専門職との連携をさらに深め、個別教育計画作成段階での関わり方について整理する。	●「個別教育計画は、子どもの実態に合わせて作成されていますか」 B以上評価 保護者 96% 教員 83%	◎「個別教育計画」に係る評価については、B以上の肯定的な評価は、教員に比べ保護者の方が高い。課題となる点を洗い出し、より授業と連動していくよう個別教育計画チームを中心に引き続き改善に向け取組む。
3 幼稚園、小・中学部、高等部を通じた「キャリア教育」に取組みます。	①「キャリア教育」の視点で子ども自身が「自分らしさ」を大切にし、自己肯定感・達成感を得られる授業を一貫した指導体制ですすめます。	①「キャリア教育」の視点で子ども自身が「自分らしさ」を大切にし、自己肯定感・達成感を得られる授業を一貫した指導体制ですすめることができたか。	評価：A	・聴覚部門幼稚園や肢体不自由教育部門高等部C課程の教育課程や授業時数について検討をしていく。また、見直した教育課程及び日課表の評価を行う。	●「子どもたちが自己肯定感・達成感を得られる授業ができていますか」 B以上評価 保護者 92% 教員 86%	◎教員の評価が保護者に比べて低い点については、日々の授業が「自立と社会参加」にどうつながるのか、また、それが指導の一貫性にどうつながるのかが難しかったと考える。日常の授業で何が「自立と社会参加」につながるのか、『授業の成り立ちシート』等を通して取組みを続けていく。
	②地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学等との交流や、商店会・企業等と連携して、「キャリア教育」に取組みます。	②地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学等との交流や、商店会・企業等と連携して、「キャリア教育」に取組むことができたか。	評価：A	・近隣校ではあるものの、共同での活動時間の確保が難しい。できるところから小さな交流を積み重ねていく。 ボランティアの入り方については、全体への周知の仕方に工夫が必要である。	●「子どもの進路支援や進路に関わる情報提供が丁寧に行われていますか」 B以上評価 保護者 88% 教員 74%	◎地域の資源を活用した校外学習を計画的に取組むことができた。校外学習の意義や目的を教員が共有しながら、実施・評価するとともに指導の系統性を高めていくことが必要である。 ◎子どもの人権を意識するために「子どもの呼称」をテーマにアイデア会議で全職員で意見交換を行い、さん付け呼称の推奨や生活年齢を意識した指導に引き続き取組んでいく。

4 地域を支援するセンター的機能を高め、地域の学校や子どもたちを支援し、校内のミニ共生社会づくりに取り組み、インクルーシブ教育を推進します。	①視覚障害や聴覚障害のある乳幼児・保護者への乳幼児相談を充実させ、早期発見・早期療育を支援します。	①視覚障害や聴覚障害のある乳幼児・保護者への乳幼児相談を充実させ、早期発見・早期療育を支援することができたか。	評価：A	・乳幼児相談の体制及び外部との連携について引き継いでいけるようより明確なシステムを作る。	●「保護者からの相談について、丁寧な対応が行われていますか」 B以上評価 保護者 94% 教員 94%	◎今年度乳幼児相談の体制を見直し整理したが、次年度も関係機関との連携を図りながら専門的な支援に取組んでいく。
	②相模原市内及び周辺地域の支援ネットワークにおける本校の役割を整理しながら、地域を支援するセンター的機能を高め、保護者や地域の関係機関に向け、ニーズに応じたさまざまな支援を行います。	②相模原市内及び周辺地域の支援ネットワークにおける本校の役割を整理しながら、地域を支援するセンター的機能を高め、保護者や地域の関係機関に向け、ニーズに応じたさまざまな支援を行うことができたか。	評価：A	・交流や共同学習を年間の授業計画に位置づけ、継続実施する。 ・センター的機能の一環として相模原市主催の研修受け入れを実施した。教育相談や学校支援で繋がっていけるよう、その趣旨を研修の中に組み込めるよう主催者へ働きかけていく。	●「交流活動や他の機関との連携は、行われていますか」 B以上評価 保護者 89% 教員 89%	◎相談、交流活動や他の機関との連携、子どもの支援に係る研修会等については、保護者・教員ともにB以上評価がほとんど同じであった。 ◎相模原市中央区に開校して6年目となる次年度は、市のネットワークづくりに参加できるよう学校からの情報発信力を高め、センター的機能をさらに高めながら、市の支援教育のランドマークを目指す。
	③学校施設開放を行い、地域に開かれた学校づくりをすすめます。	③学校施設開放を行い、地域に開かれた学校づくりをすすめることができたか。	評価：A	・学校施設開放に慣れてくることでの課題も出てきている。ルールの徹底を図っていく。		◎学校施設開放に取組み、定着してきた。次年度も利用団体と更なる連携を図り、開かれた学校づくりの推進を図る。
	④4学部4部門の学部部門をこえた「交流及び共同学習」を大切にし、校内のミニ共生社会づくりをすすめます。	④4学部4部門の学部部門をこえた「交流及び共同学習」を大切にし、校内のミニ共生社会づくりをすすめることができたか。	評価：A	・学部部門を越えた交流及び共同学習を継続していく。 ・「交流デイ」について次年度は、催し物を中心に幼児児童生徒がかかわる方法を検討中である。	●「交流デイについて」 ・子どもたちの様子を知って頂けたか。 わかった56 ややわかった9 ・企画内容はいかがでしたか。 満足41 やや満足23	◎5周年行事として実施した「交流デイ」は、学部・部門を越えた全校行事としてまた、地域に開かれた学校行事として、保護者や地域からも好評であった。
5 学校の危機管理体制を見直し、安心で安全な教育環境整備に取組みます。	①「防災プロジェクト」により、幼児児童生徒が自分の身を守る力をつける訓練を実施し、学校防災力を高めます。	①「防災プロジェクト」により、幼児児童生徒が自分の身を守る力をつける訓練を実施し、学校防災力を高めることができたか。	評価：A	・防災マニュアルの見直し、修正、活用に取り組み。	●「日ごろから緊急時の対応や防災対策に取り組んでいますか」 B以上評価 保護者 94% 教員 90%	◎消防署との合同避難訓練や地域を巻き込んだ防災研修を実施し、地域とともに防災意識を高めることができた。
	②防災マニュアルを実効性のあるものに見直し、教職員全員に周知・徹底し、防災教育をすすめます。	②防災マニュアルを実効性のあるものに見直し、教職員全員に周知・徹底し、防災教育をすすめることができたか。	評価：A			◎毎月実施しているシェイクアウト訓練や防災教育を通じて子どもたちの防災意識を高めることにつなげている。
	③幼児児童生徒にとって、安心で安全な教育環境を整備するとともに、学校全体をとおして、事故不祥事防止の取組みをすすめます。	③幼児児童生徒にとって、安心で安全な教育環境を整備するとともに、学校全体をとおして、事故不祥事防止の取組みをすすめることができたか。	評価：A	・「不適切な指導を防ぐ」という考え方の中で、幼児児童生徒の対応や指導の方向性を話し合い共通理解できる風通しのよい環境を作る。 ・各種マニュアルの活用と見直し、修正を行う。	●「教員はあいさつを心がけマナーや言葉遣いは適切ですか（電話対応を含む）」 B以上評価 保護者 93% 教員 92%	◎教員のあいさつについては、あいさつをしても返事をしない教員がいることの指摘も受けている。事故防止の観点からも教職員へのあいさつの周知徹底を図る。 ◎個人情報文書の誤配付が起らないよう、各学部・部門ごとにチーム力を高め、チェック体制をつくり取組んでいく。
	④福祉避難所設置に向けた整備をすすめます。	④福祉避難所設置に向けた整備をすすめることができたか。	評価：A	・相模原市福祉避難所の運営に関して、市内の特別支援学校3校と関係機関の連絡会を継続して開催していく。		◎相模原市との福祉避難所の運営については、市内の県立特別支援学校間で「三校連絡会」を行い情報を共有していくとともに、相模原市との連携を強化していく。